

事務事業名	図書館蔵書整備事業				☐ マニフェスト関連		☐ 全庁横断課題関連		
政策名	総合計画 04	みんな元気で笑顔あふれるまちづくり			所属部	教育委員会		所属課	生涯学習課
施策名	計画 16	行財政改革の推進			所属係	図書館班		課長名	野本 立一
基本事業名	体系 58	公有財産の管理運営			担当者名	末永 舞		電話番号 (内線)	096-242-5555
予算科目	会計 01	款 10	項 05	目 08	事業	法令根拠 図書館法・合志市立図書館設置条例			
事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 ☐ 期間限定複数年度→全体計画の投入量を記入 ↳ (開始年度 年度 ~) ↳ (年度 ~ 年度)								
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)						全体計画(期間限定複数年度のみ) (単位:千円)			
(事業の内容)図書館資料収集基本方針及び資料廃棄基準に基づき、図書・雑誌・視聴覚資料(ビデオ・CD・DVD・カセットテープ)等の購入や除籍(廃棄)を行う。 (業務の内容)具体的な図書の発注は、主に業者からの見計らい、課内の選書委員会でリストを見ながら選定したもの、利用者からの購入希望のものを参考に行うやり方がある。雑誌は休刊・廃刊になったものは別として、年に1度利用者からの要望も考慮し、見直しをする。視聴覚資料については、選書委員会でリストを見ながら選定する。 籍(廃棄)は定期的に行うものと、破損や紛失によってその都度行うものがある。 ・また、資料の提供・保存のためのデータ等の整備を行う。 (予算の内訳)備品購入費、需用費(消耗品費)						総投入量	事業費	国庫支出金 都道府県支出金 地方債 その他 一般財源	
							人件費	事業費計 (A)	0
							人件費	正規職員従事人数 延べ業務時間	
							人件費	人件費計 (B)	0
							人件費	トータルコスト(A)+(B)	0

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動)

18年度実績(18年度に行った主な活動)
・資料の購入、データ整備。資料の除籍(廃棄)

19年度計画(19年度に計画している主な活動)
・平成18年度と同じ

② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等

合志市民および合志市通勤・通学者、図書館来館者

③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)

市民や利用者のニーズに応じて適正に資料を揃え、管理する。

④ 結果(どんな結果に結び付けるのか)

公有財産の管理運営

⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)数字は記入しない

名称	単位
ア 受入数	点
イ 除籍数	点
ウ	

⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)数字は記入しない

名称	単位
ア 合志市人口	人
イ 図書館利用者数	人
ウ	

⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)数字は記入しない

名称	単位
ア 年間貸出し数	点
イ	
ウ	

⑧ 上位成果指標(結果の達成度を表す指標)数字は記入しない

名称	単位
ア 目的に併せて有効活用されていない資産の割合	%
イ	
ウ	

(2) 総事業費・指標等の推移

				単位	16年度 (実績)	17年度 (実績)	18年度 (実績)	19年度 (見込)	20年度 (目標)	21年度 (目標)	22 年度 (最終目標)
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円							
			都道府県支出金	千円							
			地方債	千円							
			その他	千円							
			一般財源	千円		34,740	32,113	33,000	33,000	33,000	
			事業費計 (A)	千円	0	0	34,740	32,113	33,000	33,000	33,000
	人件費	正規職員従事人数	人			6	6	6	6	6	
		延べ業務時間	時間			1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	
		人件費計 (B)	千円	0	0	3,970	3,970	3,970	3,970	3,970	
	トータルコスト(A)+(B)				千円	0	0	38,710	36,083	36,970	36,970
活動指標		アイウ点				19,914	19,800	19,800	19,800	19,800	
対象指標		アイウ人				53,000	54,000	54,000	54,000	54,000	
		アイウ				122,388	123,000	123,000	123,000	123,000	
成果指標		アイウ点				526,706	530,000	530,000	530,000	530,000	
		アイウ									
上位成果指標		アイウ%									
		アイウ									

合志市

事務事業名	図書館蔵書整備事業	所属部	教育委員会	所属課	生涯学習課
-------	-----------	-----	-------	-----	-------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？
・西合志館・合志館は平成7年度、泉ヶ丘館は平成9年度に開館。開館に先駆け、各館開館前年度から事業を開始。

② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？
・開始時は資料の購入ばかりで、廃棄はほとんど無かったが、5年ほど前から書庫がいっぱいになってきたため、破損や紛失以外の廃棄も当初に比べ多くなってきた。
・開始当初はほとんどなかった利用者からの「購入希望」も多くなってきている。利用者の希望も多岐にわたるようになってきた。

③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？
・新刊や購入希望の本はなるべく早く提供してほしいとの要望がある。

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 結びついている ⇒【理由】 市民や利用者のニーズに応じて適正に資料を揃え、管理するという意図は適正な公有財産の管理運営の結果と結びつく。
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 妥当である ⇒【理由】 ・図書館法・合志市立図書館設置条例により、妥当である。
	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 適切である ⇒【理由】 ・主に合志市民、市内通勤通学者を対象としているため、適切である。
有効性 評価	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	☒ 向上余地がある ⇒【理由】 ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☐ 向上余地がない ⇒【理由】 ・今後、障害者の方も利用しやすいような資料の充実を図る余地がある。 ・子育て支援コーナーの設置について、資料の充実を図る余地がある。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	☐ 影響無 ⇒【理由】 ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 影響有 ⇒【その内容】 ・市民の知的財産を奪うこととなり、大いに影響がある。
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☐ 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 ・図書館以外に幅広い資料を収集する事業は他にない。
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 ・利用者の幅広い要望にこたえるためには、資料費の削減余地はない。
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 ・開館日、開館時間が現状のままであれば、削減の余地はない。
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☒ 見直し余地がある ⇒【理由】 ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☐ 公平・公正である ⇒【理由】 ・図書館利用者とそうでない住民に受益の差がある。ただし、幼稚園・保育園・小中学生は園や学校・授業を通し、比較的公平に受益機会がある。

合志市

事務事業名	図書館蔵書整備事業	所属部	教育委員会	所属課	生涯学習課
-------	-----------	-----	-------	-----	-------

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果

- ① 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ② 有効性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり
- ③ 効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ④ 公平性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり

(2) 全体総括(振り返り、反省点)

有効性として・・・今後、障害者の方も利用しやすいような資料の充実を図る余地がある。また、子育て支援コーナーの設置について、資料の充実を図る余地がある。

公平性について・・・図書館利用者とそうでない住民に受益の差がある。ただし、幼稚園・保育園・小中学生は園や学校・授業を通し、比較的公平に受益機会がある。

(3) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可

- ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統廃合・連携 ☒ 事業のやり方改善(有効性改善)
- ☐ 事業のやり方改善(効率性改善) ☒ 事業のやり方改善(公平性改善)
- ☐ 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)

- ・障害者サービス用として、布絵本の収集・大活字本の充実を積極的に行う。
- ・子育て支援コーナーを新たに設置するにあたり、育児関係の資料を整備する。
- ・廃棄の際は他の施設等で使用できるかを検討し、譲渡できればそちらで利用してもらう。
- ・移動図書館車や配本業務を充実させ、より多くの住民が図書館を活用できるようにする。

(4) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要)

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上		○	
	維持			×
	低下		×	×

(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策

- ・移動図書館車や配本車に関する学校との連携と理解を深める。

4 事務事業の2次評価結果

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合

① 記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択)

- ☐ 記述不足でわかりにくい
- ☐ 一部記述不足のところがある
- ☐ 記述は十分なされている

② 評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択)

- ☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されてない)
- ☐ 一部に客観性を欠いたところがある
- ☐ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)

(2) 2次評価者としての評価結果

- ① 目的妥当性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ② 有効性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ③ 効率性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ④ 公平性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり

(3) 評価結果の根拠と理由

(4) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可

- ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統廃合・連携 ☐ 事業のやり方改善(有効性改善)
- ☐ 事業のやり方改善(効率性改善) ☐ 事業のやり方改善(公平性改善)
- ☐ 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)

(5) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要)

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上			
	維持			×
	低下		×	×

(6) その他2次評価会議で指摘された事項